

読書ノート

ロバート・キャハ。ちよとヒンぼけ タカラト社

訳 川添清史・井上清壹

ヘッドの横の本棚にスコット目がいった。長い間手にいらない、薄い緑縁の表紙、下の方に白い小さな活字で「ROBERT CAPA * SLIGHTLY OUT OF FOCUS」とある。地味な表紙絵もない本。うち表紙に昭和37年10月27日kayoと記してある。私は、18歳のとき、市内の本屋で買った。

扉を開くとうすい紙、その下に一枚のモノクロ写真。顔がえをついて笑みを含んだ「目が私を見た」。濃い眉の男、報道写真家、ロバート・キャハ。多くの眞実を見てきた眼。私の大切な本。

「20世紀前半の革命と戦争の中に、その文明に対するものもリアルなレンズを通して、この激動の一瞬をいかに永遠化するかの、生と死の極限に立って、その生涯を闘いつづけた死のロバート・キャハの思い出のために」と訳者川添清史が記す。

1913年ハンガリヤのブダペストに生まれ父は食いエタウ人の洋服屋、独裁者のエタウ人追放によってあちらの国に逃れた。母國とその言葉を持たぬエタウ人のキャハは、世界の言葉としての写真藝術に自らの生き道を発見したのだ。一頁を開くとモノクロの写真が沢山入っている。ああ、人間はなんて残酷な人類の歴史は戦争の歴史。今も終わらない。

キャハの眞実の記録にしっかりと対面しよう、戦勝出生まれの私。

1954年5月25日、キルギスベトナムで地雷を踏んで死んだ。死の戦だった。

鳥根の旅② 4/24~25

鉄の歴史博物館 霧南市吉田町吉田

ヤマタノオロチの神話時代から伝えられたたら製鐵。砂鉄と木炭を燃やして鉄を得る日本古来の製鐵法、鐵治屋も。

→石畳の町並
→吉田村の医師耶馬
→資料館
→標高1160Mの大野ヶ原小学校

ここに来る途中、涌水を用意した。ネコで調達する。

鳥根はひそかにすごい。
昔訪れた石見銀山をはじめここならではの鉄は一大産業になっていた。
もう一度ゆっくり訪ねたい。

→木蔭の家
→饅頭の巣
→榮堂の裏
→

キリノ大統領は妻も三人の子供もあり、かたじけない。枝のスズメも元気!

親せきも日本軍に殺されながらも、次世代に憎しみを残さないと100名以上に及ぶ

日本人戦犯釈放を決断した。モニテルへの刑務所に松も記憶される。

競薦の四女佳世子は美術館の名誉館長。今も平和活動を。私と同年同じ朝鮮生まれ、おとと説明下りた。

けやき通信

2025.7月
NO.378

一錦織佳代子一

6/5

四国カルスト・大野ヶ原へ。

緑の森、どこまでも続く
開けた高原、大野ヶ原!
のんびり放牧の牛たち、
小さな牛乳ソーフティム。

福地蔵の
GOR-COFFEE
超美味

加納莞薦展
今頃世界の平和を

知りうた
戰時中、従軍画家として中国に
渡る。戰後、元海軍少将との出会い

かきかけとなつて、フィリピンの日本人
が、次世代に憎しみを残さないと
当時のキリノ大統領らに300通を

超える手紙を出し続いた。

加納莞薦、地元出身の画家
が、ナード・ワツ・繪本原画展

グリム童話の世界
1F・2F

安来市加納美術館
1F・2F